

活動事例紹介

林研クラブ・馬路「夢いっぱい」会協議会

キノコで循環型集落づくりを目指す！

○ 活動の経緯と目標 ○

地域の山林を見ると、マツタケ山の松が枯れ、手入れされず、荒れてきたと感じ、地元の林研クラブの馬路「夢いっぱい」会が中心となって地域の方々と一緒に山林整備と森林資源の有効利用を目的とする本協議会を設立しました。「マツタケをはじめ、様々なキノコの自生する山林に整備すること」を活動の目標に掲げ、枝打ちや間伐をしっかりと行い、明るい山に仕立て直すとともに、間伐材を薪として有効利用する活動を進めてきました。



原木に生えたなめたけ

○ 現在の活動内容 ○



会長 久保 進さん

現在も林研クラブの馬路「夢いっぱい」会は、山林の整備活動に加え、「キノコを核とした循環型集落づくり」を目指し、炭焼き、養蜂、キノコ栽培、鳥獣忌避の研究、サギソウの増殖研究など多岐にわたって活動しています。地域と連携した活動が広がり、今では会員には、香川県など県外の人も加わり、38名に増えています。

○ 交付金終了後の活動資金について ○

活動立ち上げ時には、この交付金が役に立ち、様々な費用に活用しました。今では、森林の整備により自生するようになったキノコや薪等の森林資源を販売し、その売り上げを活用したり、別の交付金や助成金を得たりして、多岐にわたる活動の資金としています。

また、高齢過疎化の進む地元住民だけでは森林保全活動にも限界があるため、交付金の活動をきっかけに県外からも幅広く会員を迎え、ボランティアによる森林保全活動も充実させることができました。

○ 今後の活動について ○

これまで「キノコを核とした循環型集落づくり」として、地元自生キノコ（ホンシメジ）を廃トンネルを利用し、菌床栽培に取り組んでいたところ、平成28年より池田高等学校三好校からホンシメジの菌床栽培技術の技術移転を得て、本格的なホンシメジの商業栽培化がスタートできました。

さらに、山林の中に間伐材とブルーシートを利用した池を造り、そこでホンモロコを養殖する取組も進めていきたいと思えます。そして、トンネル内でタラの芽や葉わさびを栽培してホンシメジ栽培で発生するCO₂を吸収したり、魚を育てた時に発生する汚水を木炭を利用し浄化するなど、個々の活動がそれぞれ関わり合いながらうまく循環していく活動となるよう取り組んでいきます。



埋め戻されていた工所用廃トンネル



トンネル内で菌床栽培されるホンシメジ



タラの芽の栽培